

図書室だより 2月号

新しい年を迎えて初の図書室だよりとなります。暦の上ではもう春、あたたかさが増してきたように思います。体調管理をしっかりとって元気に登校しましょう。

さて、今月の推薦図書を担当してくださる先生は、知的で常にクールな地歴公民科の富田先生です！

『アルジャーノンに花束を』（ダニエル=キイス）

推薦図書としていくつか候補があり迷いましたが、最初に頭に浮かんだ『アルジャーノンに花束を』をお薦めさせていただきます。日本では2回もドラマ化されたため、聞き覚えのある人もいるのでは。「幸せとは何か」という問いは、富田にとっても永遠のテーマです。お金が有るか無いか、特技が有るか無いか、異性にモテるかモテないかetc...色々と考えられますが、この小説においては、「知能指数（IQ）が低いことは悪いことか、悪代としたら知能指数（IQ）が高いことは良いことで、幸せにつながるのか？」と問われています。

32歳で幼児の知能しかないチャーリー・ゴードン。そんな彼に、手術によって頭がよくなるという話が舞い込み、チャーリーは天才に変貌するが…超知能を手に入れた青年の愛と憎しみ、喜びと孤独を通して人間の心の真実に迫ります。障害の有無に関わらず人間は人間であって、人として扱ってほしいという主人公の思いが心に突き刺さります。小説は日記のような形で記され、知能が高くなるにつれて文章の書き方が変化していきます。奇跡と悲劇を乗り越えた後も、なお優しさを感じさせるチャーリーの最後の言葉には感動します。著者は小説の中で「知能だけでは何の意味も持たない」「愛情の裏打ちのない知能なんて値打ちもない」と伝えていますが、これについて読んだ後に皆さんがどのように考えるのか、ぜひ聞かせてほしいなと思います。

併せて同じ著者の『24人のビリーミリガン』も是非読んでみてください。連続強盗の容疑で逮捕されたビリーが、23人の人格を持つ多重人格者であることが認められて無罪となるという、世界に衝撃を与えた出来事の話です。

主人公の知能の変化が文章の書き方にも反映しているという点、とても興味深いですね！主人公を通して、読者に「幸せとは何か」という深い問いを、考える機会を与えてくれる作品ではないかと思います。

富田先生、ありがとうございました。推薦図書の魅力をわかりやすく伝えるとともに、「読んでみたい」と思わせる紹介の仕方…あっぱれです！！

そこで、今月の“進徳掲示板”は、「本の紹介」について特集します！

進徳図書室掲示板

みなさんが本を買うとき または借りるときに、重視するところはどこですか？表紙の絵、タイトル、有名な人物によるコメントが載った帯、本の裏に書いてあるあらすじ……いかがでしょうか。本には、一人でも多くの人に手に取ってもらうべく、さまざまな工夫がされています。

今回は、そんな工夫をたくさん取り入れてつくられた キャリアデザインコースの生徒による『本の紹介冊子』を一部紹介します！

- ・イラスト
- ・内容
- ・対象年齢
- ・おすすめ理由
- ・紹介者のメッセージ

キャリアトリアル「子どもの発達と保育」の授業で生徒たちによってつくられた冊子がこちら！

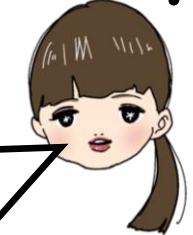
・・・か、かわいい！

1番に目を引くのは、その本の内容に合わせて描かれたイラスト。こんな可愛いイラストが描かれていたら、見ちゃいますよね！

□授業を担当する宮本先生からのコメント

みなさんは、進徳の図書室に絵本コーナーがあることを知っていますか。絵本って深いんです。子どもたちに伝えたい大切なことがたくさん詰まっています。でも、子どもたちはそれを考えずに読みますし、そんなこと考える必要なんてないんです。さみしいときや辛いときに、絵本に出てきたゆかいな仲間たちを想像することで心の隙間を埋めてくれますよ。みなさんも、自分のお気に入りの絵本を見つけてくださいね。ちなみにお勧めは島田ゆかさんの「バムとケロ」シリーズです。細かい絵がとても可愛く、読み返す度に新しい発見があります。

どや！



「なんて素敵な企画、作品なんだ…！」と感

銘を受けた畑中は、その後、この「本の紹介」を自分の担当する「国語総合」の時間でも取り入れてみることに。

本を紹介するためにはまず、その本の内容を知ることが重要です。そのため、みんな自分が選んだ本を集中して読んでいました。内容がわかった上で、次に、どのようにしたら「読みたい」と思ってもらえるかを考え、各々工夫した紹介文を書けたと思います！よくできました！

自分のおすすめの本を他者に読んでもらうためには、いかにインパクトのある表現ができるかということが重要ではないでしょうか。

皆さんも、本の内容だけでなく、一冊の本に隠された数々の工夫に注目してみてください！